INAX

TBSK-401　FU, FFU

工事説明書必読・保存の注意

設置工事をされる前に、この工事説明書を必ずお読みのうえ正しく据え付けてください。
なお、この工事説明書は、取扱説明書と共に必ず保存してください。

安全のために必ずお守りください

ここに示した注意事項は安全のためのものです。施工前に必ず読み、施工時に必ずお守りください。
誤った据付けにより生じる危害 ・損害の程度を「⚠警告」「⚠注意」に区分しています。

⚠ **警告**	作業を誤った場合に設置工事作業者が、又は設置工事の不具合によって使用者が、死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。
⚠ **注意**	作業を誤った場合に設置工事作業者が、又は設置工事の不具合によって使用者が、傷害を負う可能性が想定される場合及び物的損害のみの発生が想定される場合。

図記号の例

⃠	記号は「**禁止**」を表しています。
❗	記号は「**強制**」を表しています。
⚠	記号は「**注意**」を表しています。

⚠ 警告

1. 据付けや移動は、販売店へ依頼すること

○ご自分で据付け工事され不備があった場合、感電や火災の原因になります。

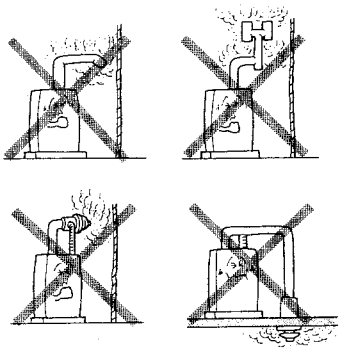
2. 火災予防条例、電気設備に関する技術基準、電気工事や水道工事はそれぞれ指定の工事店に依頼するなど法令の基準を守る。

3. 屋内排気禁止

○必ず屋外に排気してください。
排ガスが室内に充満して危険です。

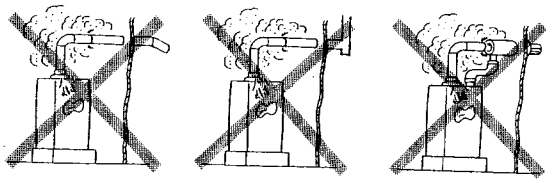
4. 屋内給排気及び床下給排気禁止

○必ず屋外に排気してください。
排ガスが室内に充満して危険です。



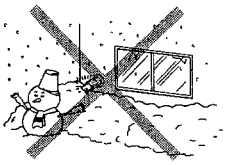
5. 外れ危険

○排気筒（煙突・給排気筒）の接続は確実に行い、排ガス漏れ防止のためアルミテープなどで必ずシールし、しっかり固定してください。
風、振動、衝撃などで外れたりすると運転中に排ガスが室内に漏れて一酸化炭素中毒のおそれがあります。



6. 給排気筒トップ閉そく危険（FFUタイプのみ）

○積雪が多いときに給排気筒トップの周りが雪でふさがれない場所に設置してください。また、板などによる「雪囲い」は給排気の妨げになるのでおやめください。
運転中に排ガスが室内に漏れ一酸化炭素中毒のおそれがあります。



⚠ 注意

1. 次の場所には据え付けない。

火災や予想しない事故の原因になります。
○水平でない場所、不安定な場所
○不安定な物を乗せた棚などの下
○可燃性ガスの発生する場所又はたまる場所
○雨水のかかる場所
○燃焼に必要な空気を取り入れる空気取入口のない場所又は換気の行えない場所
○付近に燃えやすい物がある場所
○階段、避難口などの付近で避難の支障となる場所
○排水のしにくい場所
○浴槽と同一室内
○油タンクを安全に設置できない場所
○機器の給排気に影響を与える場所
※この機器は屋内設置形です。屋外または浴室内へは絶対設置しないでください。

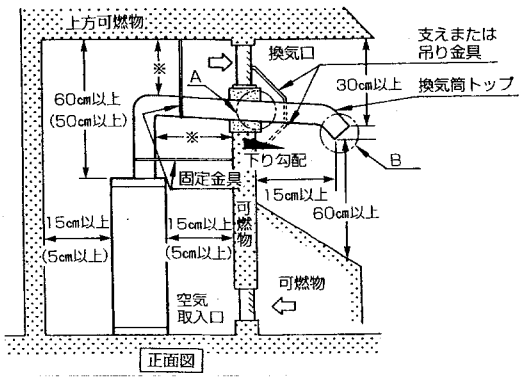
2. 1000m以上の高地への取付け

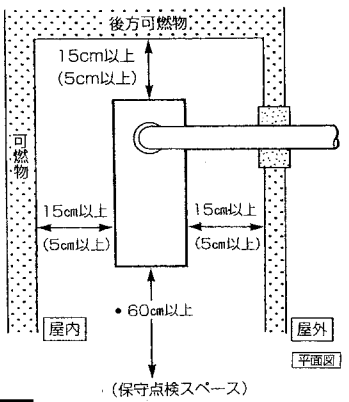
○1000m以上の高地で使用する場合は、当社支社へご相談ください

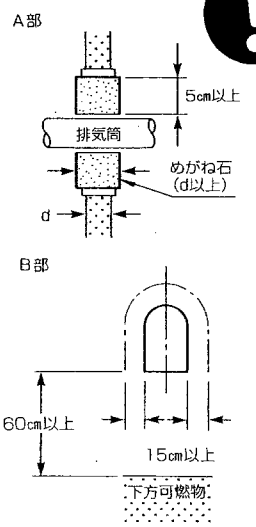
3. 可燃物との距離は離す

・排気筒の場合（標準トップタイプ）

標準据付け図例



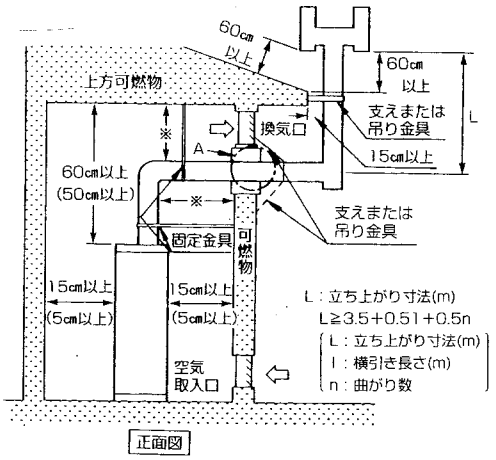


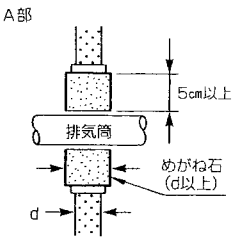


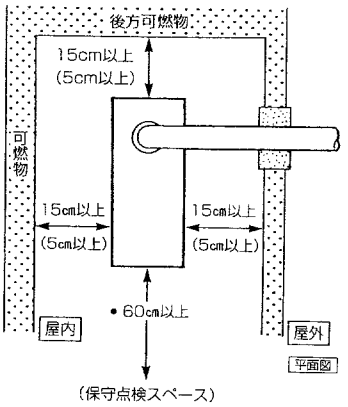
※は排気筒の半径以上
（　）内は防熱板等を使用の場合
排気筒は固定金具で1.5～2m間隔に固定すること。

・排気筒の場合（Hトップタイプ）

標準据付け図例







※は排気筒の半径以上
(　)内は防熱板等を使用の場合
排気筒は固定金具で1.5～2m間隔に固定すること。

○金属製以外の不燃材の床上に据え付けるか又は、防火上有効な措置を講じた金属製の台上に据え付けてください。

○家屋貫通部の注意

・排気筒が可燃性の壁などを貫通する部分は必ずめがね石を使用してください。

・小屋裏、天井裏などにある部分は金属製以外の不燃材料で防火上有効な被覆を行ってください。

・可燃性の壁、天井、小屋裏、天井裏などを貫通する部分及びその付近では排気筒の接続はしないでください。

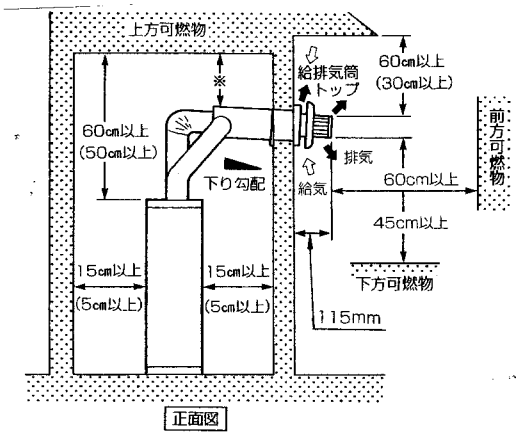
○排気筒の固定

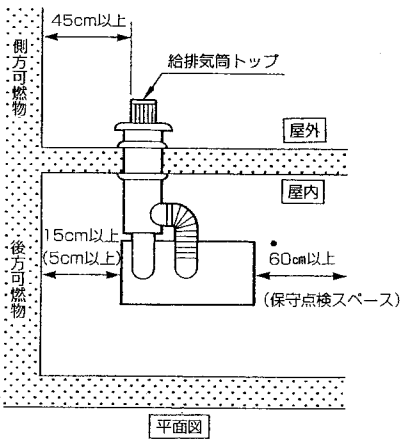
・排気筒は、風や振動などで倒れないよう支え金具や支え線などで固定してください。

・排気筒は、1.5～2mおきに固定金具で固定し、自重を支える部分は支え又は吊り金具で堅固に支持してください。

・給排気筒の場合

標準据付け図例





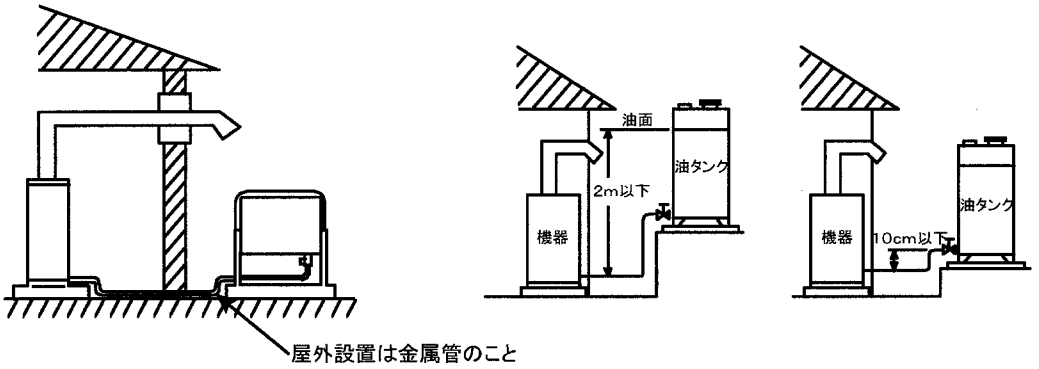
※は排気筒の半径以上
(　)内は防熱板等を使用の場合

○金属製以外の不燃材の床上に据え付けるか又は、防火上有効な措置を講じた金属製の台上に据え付けてください。

4. 油タンクとの距離を離す

※据付けについては各地区の火災予防条例に従ってください。

油タンク設置図例



○機器本体より2m以上離して据え付けるか、防火上有効な遮へいを設けてください。
○据置式の場合、不燃材の安定した床に設置してください。
○振動などで転倒しないように、必ずアンカーボルトなどで固定してください。
※架台付オイルタンクはFB-82TKRのみ取付け可能です。
架台付オイルタンクの同梱品の継手を必ず取付けてください。
詳しい工事方法はFB-82TKRの工事説明書を参照してください。
FB-82TKRが既設の場合は、別売の「FB-T-FK」（FB-82TKR用フィルターセット）
を用意して、必ず取付けてください。

5. ゴム製送油管の屋外使用禁止

○ゴム製送油管は絶対に屋外で使用しないでください。
ひび割れを生じ油漏れによる火災がおこるおそれがあります。

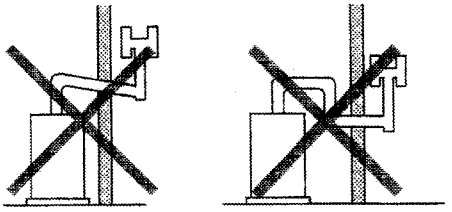
6. アース工事をすること

○アース工事を必ず行ってください。（D種接地工事）
故障や漏電のときに感電するおそれがあります。
○アース線は、ガス管、水道管、電話や避雷針のアース回路には接続しないでください。
○アース工事は販売店にご相談ください。

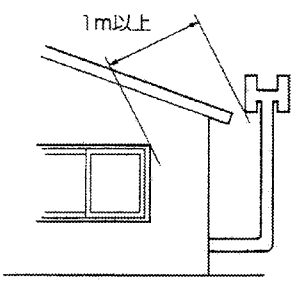
7. 排気筒、給排気筒の点検

※取付けが終わったら、もう一度点検してください。次のような取付けは危険であったり、不完全燃焼を起こすおそれがあるので、必ず修正してください。

○排気筒（Hトップ）の場合
1. 下り勾配、下向き曲がり禁止

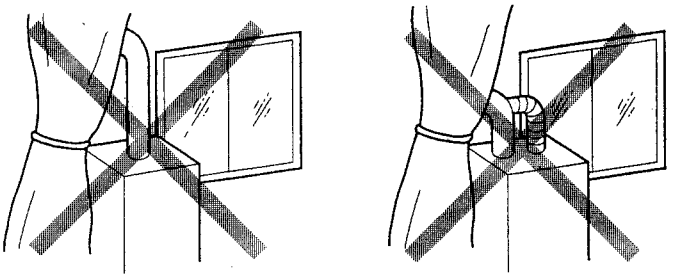


2. 排気トップと開口部は1m以上のこと

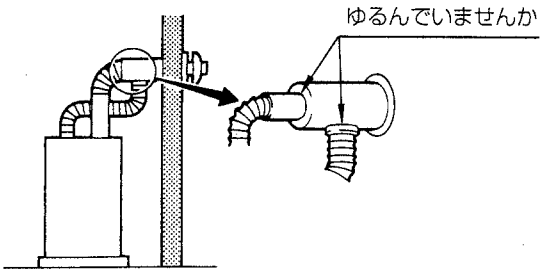


○ 排気筒（標準トップ）、給排気筒の場合

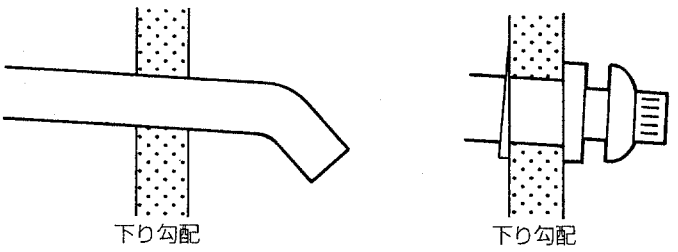
1．可燃物近接禁止



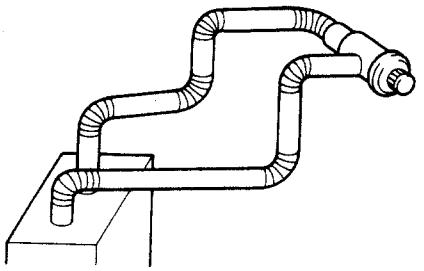
2．接続のゆるみ点検



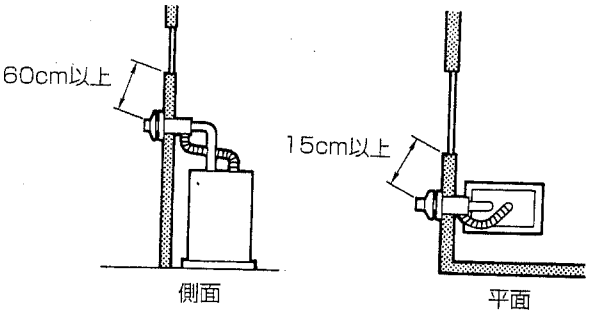
3．下り勾配のこと



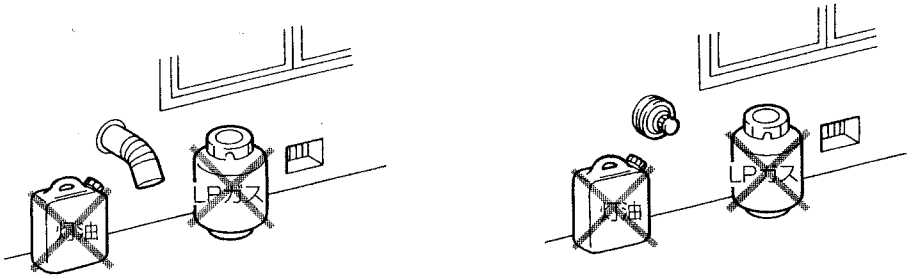
4．3m3曲がり以下のこと



5．給排気筒トップと開口部との距離

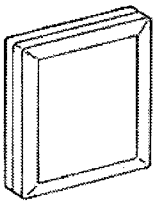
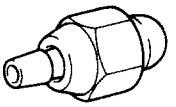
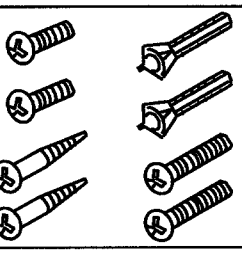
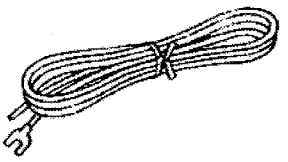
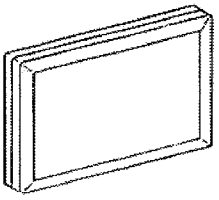
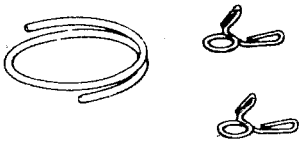
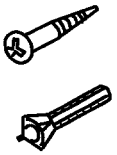
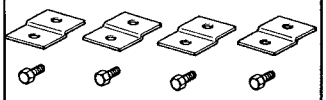
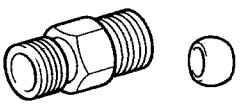
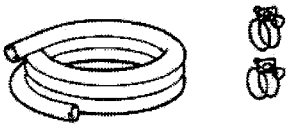
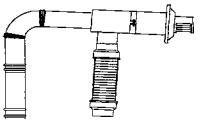


6．危険物近接禁止



1 開こん

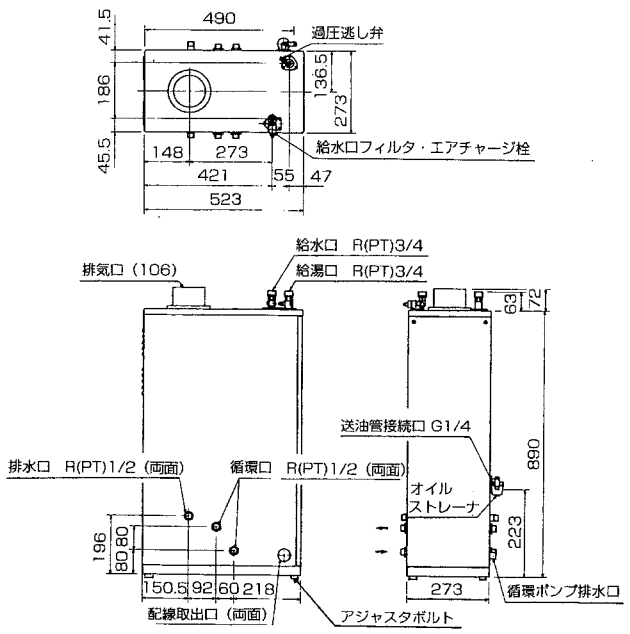
梱包箱には機器本体の他に下記の部品が入っています。 静かに取り出し部品と個数を確認してください。

部品名	形 状	個数	部品名	形 状	個数
給湯リモコン （壁掛け金具付）		1	送油接続管 ・ホースロ （1） ・袋ナット （1）		1 セット
給湯リモコン用 ビスセット ・ﾄﾗｽ小ﾈｼﾞ (M4×12) (2) (M4×25: ｽｲｯﾁﾎﾞｯｸｽ用) (2) ・ﾄﾗｽ木ﾈｼﾞ (φ 4.1×25) (2) ・ｳｫｰﾙﾌﾟﾗｸﾞ (6×20) (2)		1 セット	アース線		1
バスリモコン （パッキン付）		1	吐水ホース （1） （過圧逃し弁用） バンド （2）		1 セット
バスリモコン 用ビスセット ・トラス木ネジ （φ 4.1×25）(2) ・ウォールプラグ （6×20）(2)		1 セット	排気筒トップ （標準トップ） アルミテープ （FUタイプのみ）		1 セット
固定金具 （4） 固定ﾎﾞﾙﾄ(M8)(4) （BL品のみ）		1 セット	取扱説明書 工事説明書 セット		1 セット
送油銅管 （1） ﾎﾞｰﾙｽﾘｰﾌﾞ （2） 袋ナット （2） （FUタイプのみ）		1 セット	・油配管延長 ﾎﾞｰﾙｽﾘｰﾌﾞ接続 継手 (1) ・φ8銅管用 ﾎﾞｰﾙｽﾘｰﾌﾞ (1)		1 セット
ゴム送油管 （1） ﾎｰｽﾊﾞﾝﾄﾞ （2） （FFUタイプのみ）		1 セット	《別梱品》 給排気筒セット TBH-33FFS （FFUﾀｲﾌﾟのみ）	 セット内容は、給排気筒セットに同梱の工事説明書を参照下さい。	1 セット

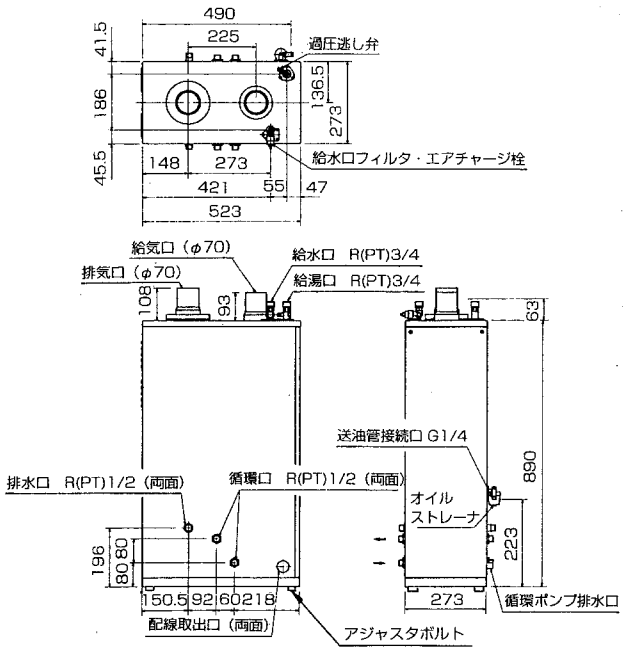
2 各部の名称と主要寸法図

・外形寸法図

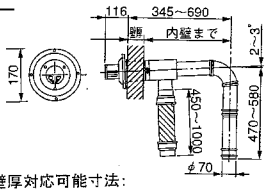
FU



FFU

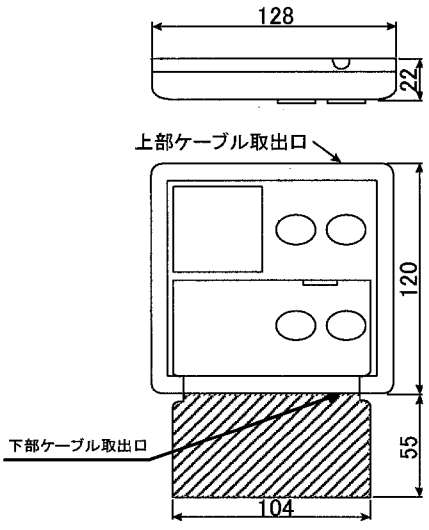


給排気筒セット

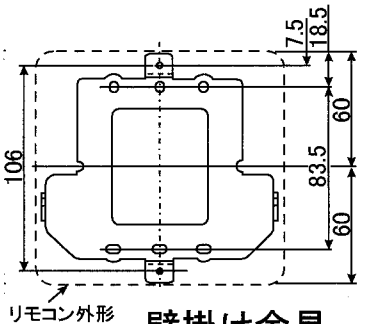


＊壁厚対応可能寸法:
150mm～290mm
＊必要壁開口寸法:φ105

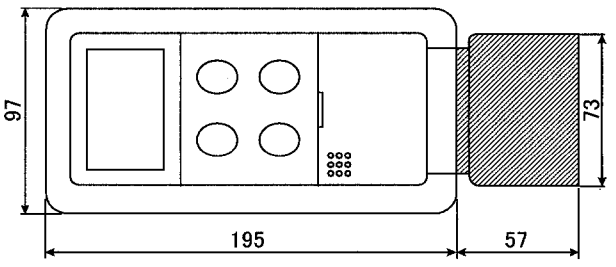
リモコン



給湯リモコン



壁掛け金具



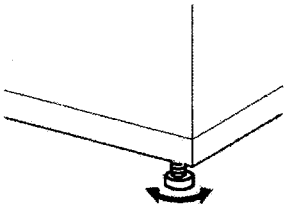
バスリモコン

3 据付け

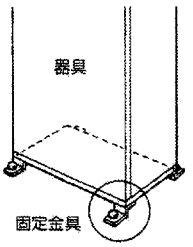
機器の据付け

○機器の据付けは、P. 2～「3. 可燃物との距離は離す」を守り据え付けてください。
○機器が水平になるよう据え付けてください。(アジャスタボルトによる調整)
○BL認定品については、付属の固定金具で固定してください。

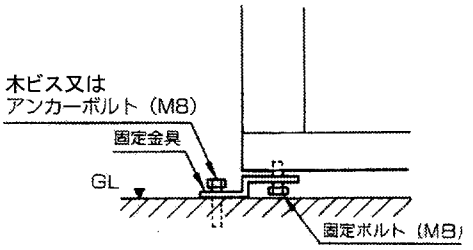
アジャスタボルトによる調整



4コーナのボルトで調整



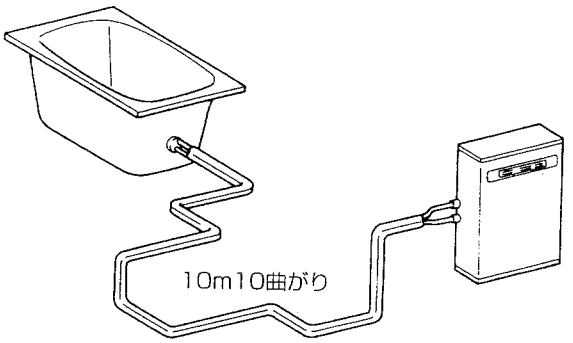
BL品のアンカー固定



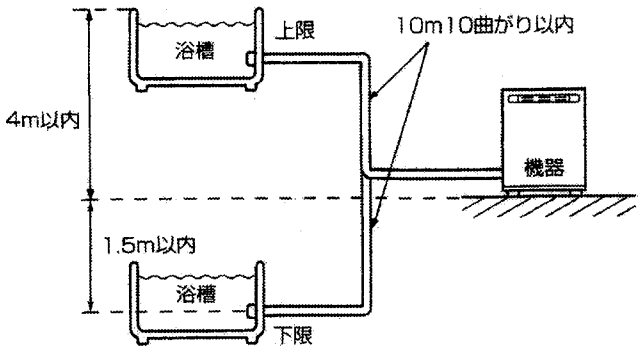
ゴムアジャスタボルトから固定ボルト (M8) に取替え固定してください。

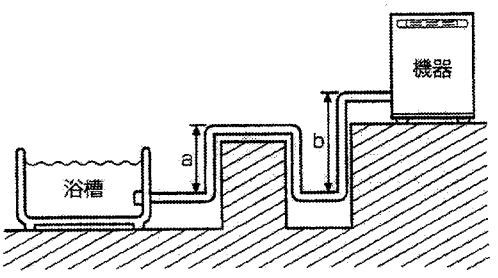
機器と浴槽との位置関係

○配管の全長は、片道10m10曲がりまでです。
この範囲内に機器を設置してください。



○浴槽が機器より上の場合は、機器底面より浴槽のあふれ縁まで4m以内
○浴槽が機器より下の場合は、機器底面より循環アダプターまで1.5m以内
※鳥居配管 (エアーたまりの発生するような配管) の場合は、立ち上がり寸法の合計を1.5m以内としてください。





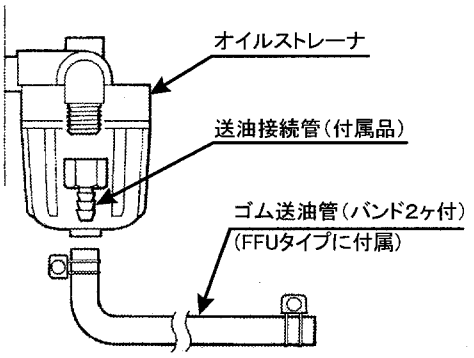
※ a+b=1.5m以内

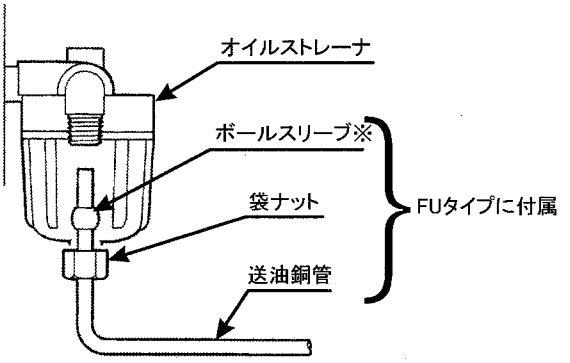
送油配管の接続

○送油配管の接続はP.2「油タンクとの距離」および「ゴム製送油管の屋外使用禁止」を守り、給湯機本体の右下部分のオイルストレーナに同梱の送油銅管（φ８×２．３m）を使って接続してください。

・配管長さが２．３mを越え10m以下の場合は別売のFB-83PO（φ８×10m）を使用してください。

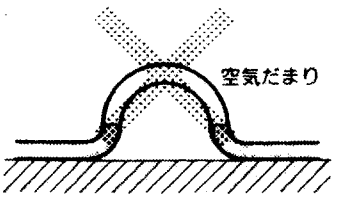
・10mを越える場合は途中を1／2Bまたは3／8Bの銅管を使用し、その末端に同梱の送油銅管、ﾎﾞｰﾙｽﾘｰﾌﾞ継手を取り付けてください。

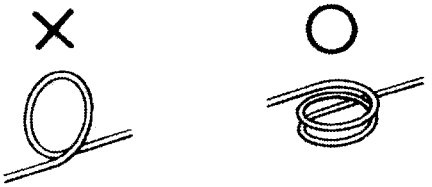




※必ず付属の樹脂製のﾎﾞｰﾙｽﾘｰﾌﾞを使用してください。
金属製のﾎﾞｰﾙｽﾘｰﾌﾞを使用すると漏油する場合があります。

・途中に空気のたまりやすい逆U字配管や無理な曲げ方はしないでください。



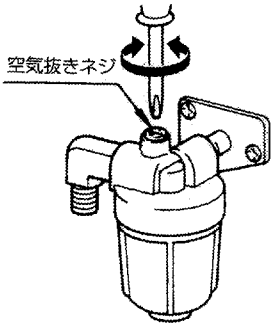


銅管が余った場合は空気だまりが出来ないように適切な長さにし、まとめてください。

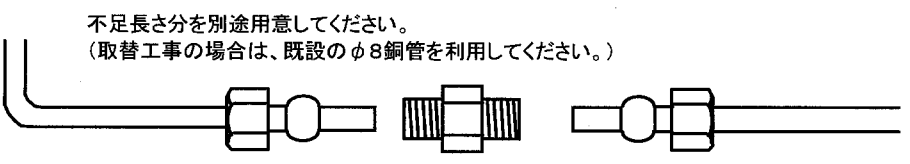
○油配管施工後は、下記の方法で空気抜きを行ってください。

〈空気抜きの方法〉

1. 油タンクの送油バルブを開けてください。
2. オイルストレーナの空気抜きネジをゆるめてください。（すき間から空気と油が出てきます）
3. ネジのすき間から気泡が出なくなったら空気抜きネジを締め付けてください。
4. 周囲にこぼれた油は布でよくふき取ってください。



○付属の送油銅管で足りない場合は、「油配管延長継手」により、延長をしてください。

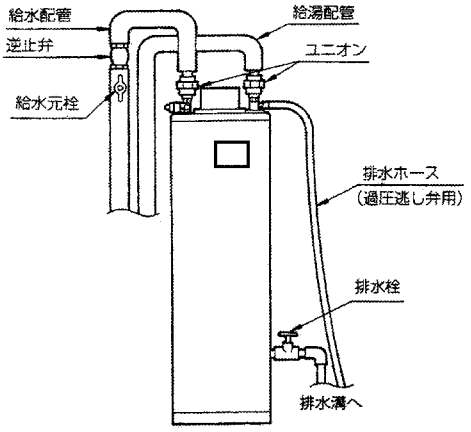


4 水道配管

・配管工事は水道局の指定工事店に依頼し、所轄の水道局の規定に従ってください。
・給湯配管は銅管などの金属配管を使用し、各地区の水道局の指定がある場合は指定に従ってください。
鉛管や水道用塩ビ管は絶対に使用しないでください。
・給水、給湯接続口はR3/4(20A)になっています。間違いのないよう配管してください。
・温泉水等、公共の水道水以外は通水しないでください。腐食等により機器の寿命低下の原因になります。
・機器に接続する前に必ず水を流して配管内の切粉・砂・ゴミなどを排出してください。

配管工事

・給水接続口付近に保守、点検時のための給水元栓と逆止弁を必ず取付けてください。
また、給水口と逆止弁との間の配管には水道用塩ビ管は絶対に使用しないでください。
・メンテナンス時の簡便化のため、給水、給湯配管の近くにユニオンを設けてください。
・銅管を使用する場合、接続部は必ずロー付けしてください。ハンダ付けは絶対にしないでください。
・配管距離が長くなると、熱損失が多くなります。できるだけ短距離の配管にし、複雑な配管はしないでください。
・過圧逃し弁は機器使用後に少量の水がでます。付属の排水ホース等（内径φ10）を接続し排水溝の設置等の適切な排水処理をしてください。
・排水口（R1/2）には容易に排水が行えるように排水栓を取り付けてください。



給水圧力について

・この機器の性能を維持するためには、機器の最低作動水圧0.02MPa（0.2kgf/cm²）＋配管の損失水圧（特にシャワーヘッドの損失水圧＋位置水頭〔給湯する一番高い位置〕＋α（余裕）を加算した給水圧力が必要です。給水圧力が十分あることを確認してください。
余裕αは幅広い湯温を得るために0.03MPa（0.3kgf/cm²）以上を加算してください。
目安としてφ15.88銅管5m5曲がり、2ハンドル水栓の湯側のみで12L/minの流量を確保するには、0.17MPa（約1.7kgf/cm²）の動水圧が必要です。
・台所用、風呂用水栓の中には、非常に圧力損失の大きい泡沫水栓があります。これは水圧0.1MPa（1kgf/cm²）以下の現場には使用しないでください。
・最高使用圧力は0.69MPa（7kgf/cm²）ですが、機器の最適な使用性能を確保するために給水圧力が0.49MPa（5kgf/cm²）を越える場合は、別売の水道用減圧弁FH-13Y（設定圧力0.25MPa（2.5kgf/cm²））を取り付けられることをお奨めします。

配管の凍結予防

沖縄を除く日本全国の各地で凍結が発生する気温が記録されています。したがって、寒冷地はもちろんのこと、寒冷地以外の地方でも凍結することがあります。十分に凍結予防を考慮した工事を行ってください。

・給水、給湯、排水配管は保温材を巻いてください。（地中に埋設されている配管については、不凍深度に至るまで巻いてください。）
・寒冷地においては保温材だけでは不十分なので、水道配管用凍結予防ヒーターを巻き付けてください。

5 ふろ配管

ふろ配管

○配管長さ（片道）
　10m10曲がり以内
※長くなると放熱、圧力損失により追い焚き能力が低下しますので、できるだけ最短距離で配管してください。

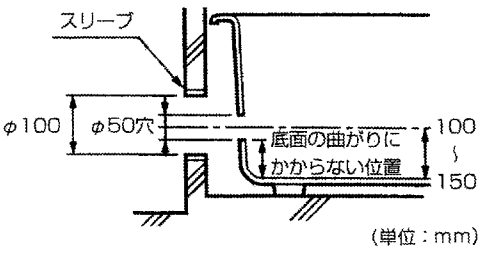
○配管部材

1. ペアホース （別売）
   - TBH－403K （30cm）
   - TBH－405K （50cm）
   - TBH－410K （1m）
   - TBH－420K （2m）
   - TBH－430K （3m）

2. 銅管　外径φ12.7

浴槽の穴あけ

・浴槽に底面から100～150mmの位置（底面のRにかからない位置）にφ50mmの穴を1ヶ所あけてください。（厚さ20mm以下）
※ 標準寸法ですと沸き上がり温度が均一になりにくくなります。
・既設のふろ釜と取替えを行う場合には、循環管接続用の上部の穴はアナトマール（PBF－30）などでフタをし、下の穴に一口循環口を新たに取付けて施工してください。

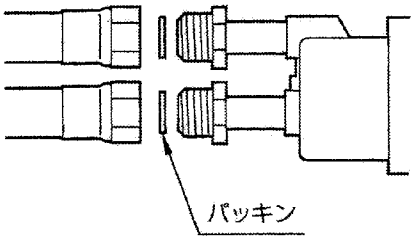


配管方法

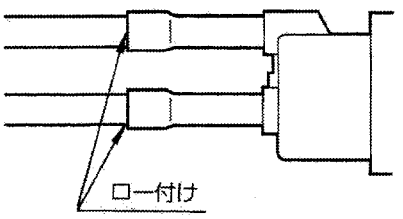
○一口循環口との接続（下記※の一口循環口は、往き・戻りの指定はありません。）

・ペアホース接続の場合
浴槽との距離が30cm～3mまでの場合は、簡単に施工することができます。
※一口循環口はTBH－250、260（別売品）より選んでください。

・銅管（φ12.7）接続の場合
一口循環口を浴槽に取付ける前にロー付けしてください。
浴槽に取付けたままロー付けするとパッキンや浴槽を痛めます。
※一口循環口はTBH－220、230、240、270（別売品）より選んでください。

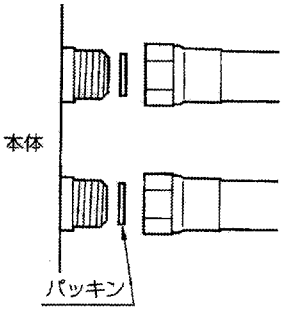


・クイックワン一口循環口（TBH－302,305）の場合
浴槽との距離が
　TBH－302：2mまで
　TBH－305：5mまで
の場合は、簡単に施工することができます。
※あらかじめ、一口循環口と追いだき用ホースが接続済みです。



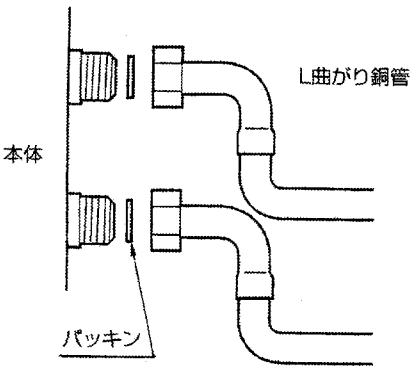
○機器との接続

・ペアホース接続の場合
直接機器と接続してください。

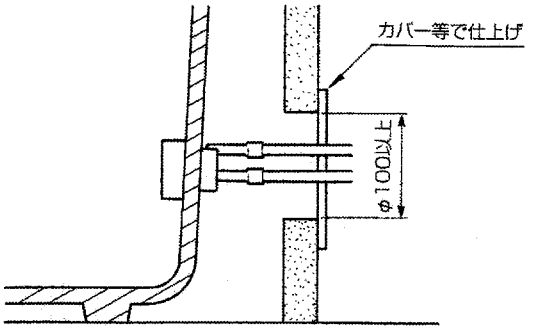


・銅管（φ12.7）接続の場合
銅管の機器接続部にL曲がり銅管（一口循環口付属）をロー付けし、機器と接続してください。

・クイックワン一口循環口の場合
施工現場にあわせてホースの長さをカッター等で調節・切断し、付属のクランプ・ホースエンド・パッキンを使用して接続してください。

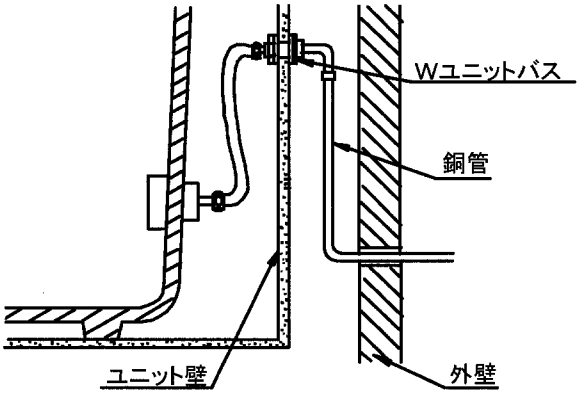


○浴槽との接続
・一口循環口の場合
※クイックワン一口循環口も同様です。



・ユニットバスとの接続例

Wユニットバス貫通金具 ・YK-100WUB-F2 ・YK-100WUB-AF を使用 ・YK-100WUB-2-K



○水漏れ確認
・浴槽および機器に給水し水漏れのないことを確認してください。

配管の凍結予防

・配管は保温材等を巻いて十分に保温してください。
・寒冷地においては保温材だけでは不十分なので、凍結予防ヒーターを使用する等の凍結予防処置を行ってください。
・ヒーターを使用する場合は、必ず銅管を使用してください。
（ペアホースへのヒーター巻きはしないでください。）

6 電気配線

電気配管を電力会社の指定工事店に依頼し、所定の配線をしてください。なお、工事は電気設備基準に準じて行ってください。

・電源コードの有効長さは2mです。機器から2m以内に専用のコンセントを設けてください。
・機器の電源は交流100V（50/60Hz）です。消費電力を銘板で確認のうえ配線してください。
・電源にタンブラスイッチは使用しないでください。タンブラスイッチで電源を「切」にするとヒーターが作動せず、凍結破損の原因となります。
また、燃焼中に「切」にすると、機器が過熱し安全装置が作動する可能性があります。
・電源コードとリモコンコードを沿わせて配線したり、同一ケーブル内での配線は行わないでください。
（電源ノイズによる誤作動の原因となります。）

アース工事

・アース線は機器本体下部のアース端子に接続してください。

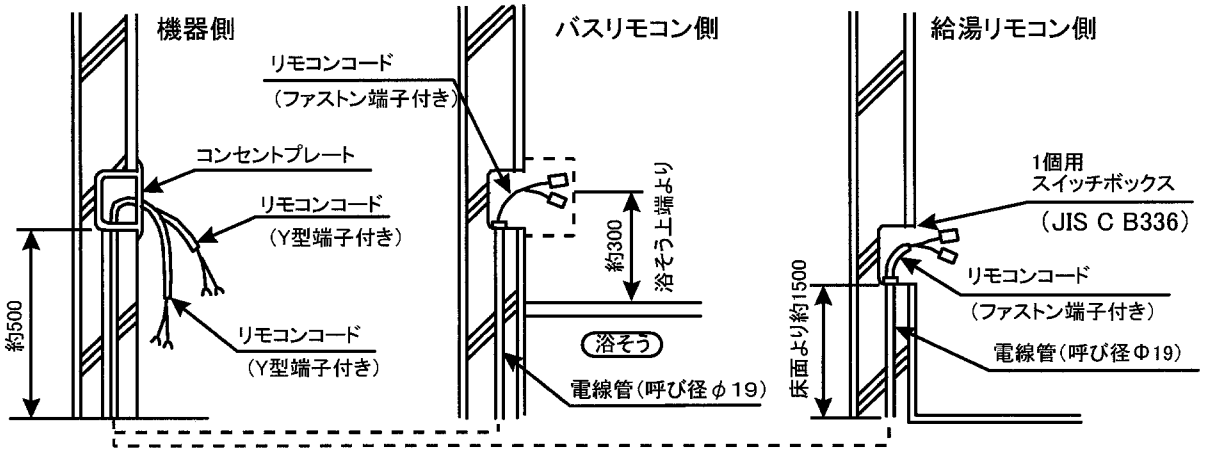
※テレビ・ラジオなどへのノイズ（雑音）に関する注意
機器点火時にテレビ・ラジオなどへノイズ（雑音）が入ることがありますが、点火放電によるもので、異常ではありません。テレビ・ラジオなどは機器と3m以上離し、コンセントは別回路となるようにしてください。
ノイズ（雑音）を減少させることができます。また、ノイズ（雑音）はその地域の電波の強さ、給湯機とテレビ・ラジオの発信基地の方向性も関係します。受信電波の弱い地域（山間部など）では、テレビ・ラジオ等のアンテナの位置から外れた位置に給湯機の設置をお奨めします。

《リモコンを機器から取り外して使用する場合》

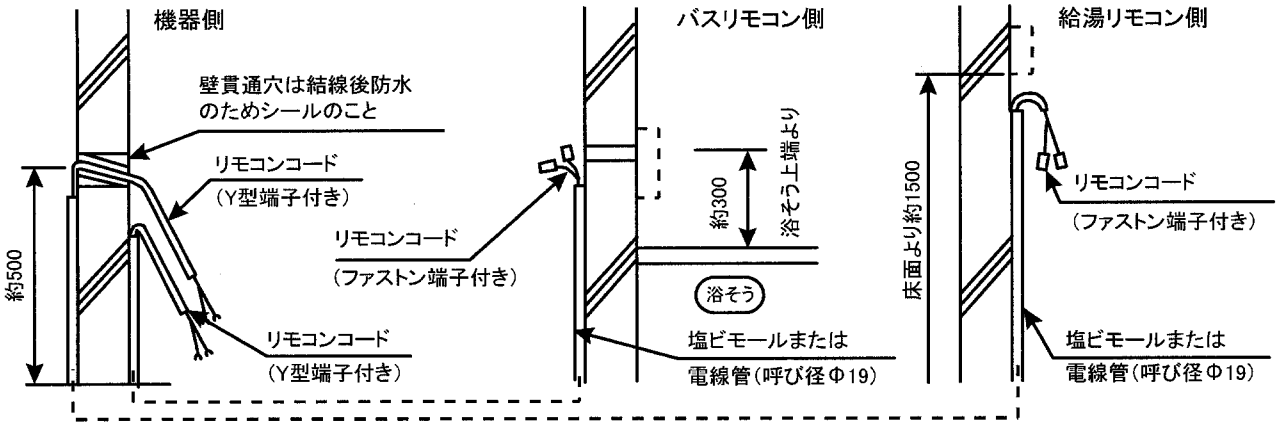
1. リモコンコードの配線のしかた

・別売のリモコンコードを準備してください。
RC-12A-5（5m）・8（8m）・10（10m）・12（12m）・15（15m）・20（20m）を用意しています。

○壁内埋込配線の場合

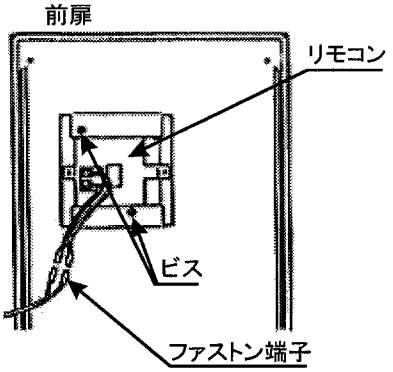


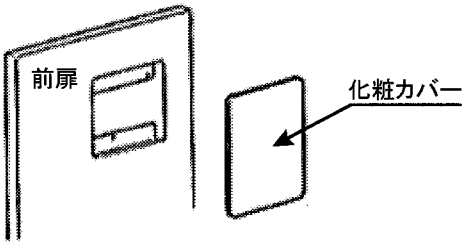
○露出配線の場合



2. リモコンの取り外し方

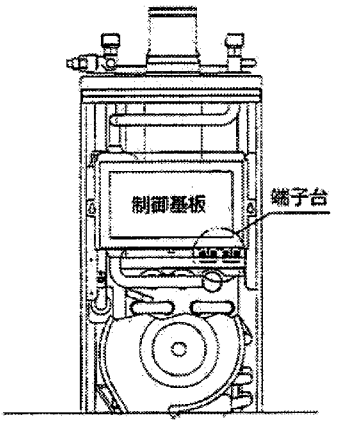
①前扉を外してください。
②機器側に接続されているコードのファストン端子を外してください。
③前扉裏面のビスを2本外しリモコンを取り外してください。
④取り外した後は付属の化粧カバーを外側より貼りつけてください。（リモコン取付部全体がかくれるように貼りつけてください。）

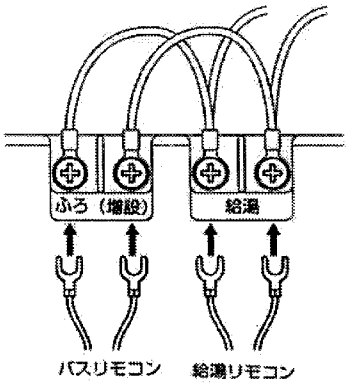




3. リモコンコード接続

・下図の位置の端子台にリモコンコードのY端子を接続してください。





7 リモコンの取付け

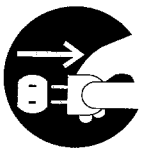
設置前の確認

○機器本体からリモコンまでの接続線は24V以下ですので、この配線工事は「小勢力回路の工事」に該当し、電気工事士の資格がなくても工事できますが、電気設備技術基準に合った電気工事で施工してください。

○2芯ケーブルは他の電気製品の電源コードと離して配線してください。洗濯機・冷蔵庫・衣類乾燥機などの電源コードと近接・併走配線すると、機器が作動しないことがあります。また、テレビ・ラジオ・ステレオなどの電源コードと接近して配線すると、テレビなどの画像・音声にノイズ（雑音など）が入ることがあります。

○2芯ケーブルが余る場合は、機器の外にて処理してください。（機器の中へは絶対に押し込まないでください）

○2芯ケーブルを機器本体と接続するときは、機器の電源プラグが抜いてある（分電盤の専用スイッチが「切」になっている）ことを確認してから行ってください。



○下記の場所に取り付けないでください。

・温度が高くなるところ　・直射日光のあたるところ
・湯気のかかるところ　・油のかかるところ
・水しぶきや蒸気水滴などのかかるところ
・特殊薬品を使用するところ

○給湯リモコンは防水構造ではありません。湿気の多いところには設置しないでください。

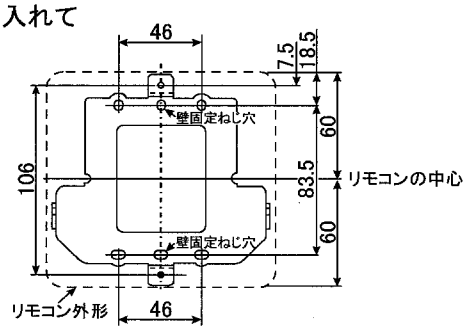
○バスリモコン以外は、絶対に浴室内に設置しないでください。

○壁面埋込配線の場合は、始めにリモコン取付け壁面から2芯ケーブルが引き出されていることを確認してください。

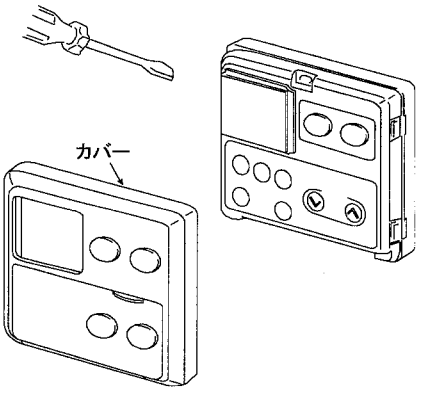
給湯リモコンの取付け

露出配線で給湯リモコンを木壁面やコンクリート壁面に取付ける場合

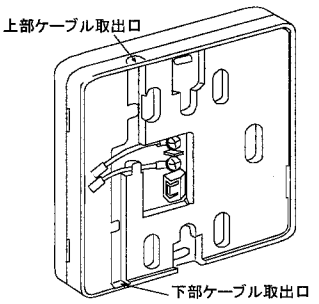
① 壁面付金具を壁面に⊕木ねじにて固定してください。壁（または壁の素地）がコンクリート・ブロックなどの場合はウォールプラグ用穴（Φ6、深さ25mm以上）を2箇所あけ、ウォールプラグを入れてから、⊕木ねじにて固定してください。



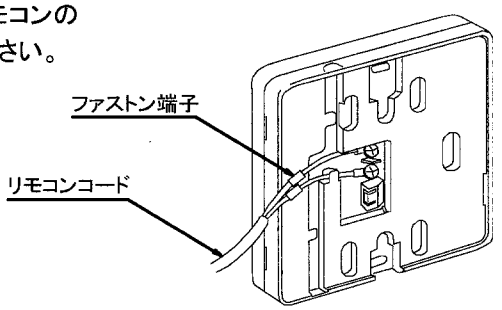
② カバーを取りはずしてください。
※⊖ドライバーを使って取りはずしてください。



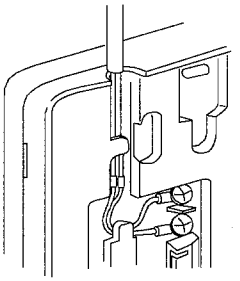
③ ケーブル取出口（上部または下部）を
ラジオペンチなどで割り取ってください。



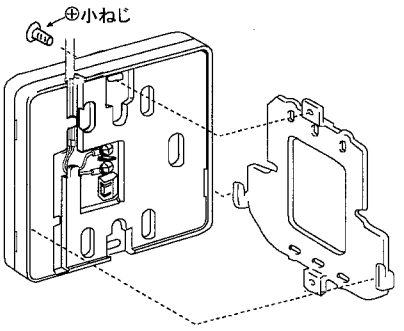
④ リモコンコードのファストン端子と給湯リモコンの
中継線のファストン端子とを接続してください。



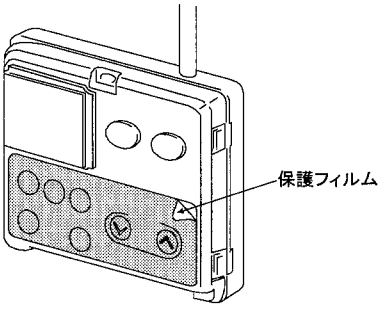
⑤ リモコンコードをケースのツメにひっかけて固定してください。
※ 以下のイラストは上部ケーブル取出口を使用する場合のものですが、下部ケーブル取出口を使用する場合も同様の手順で行ってください。



⑥ 壁取付金具に給湯リモコンを取付け、⊕小ねじ（M4×12）で
固定してください。



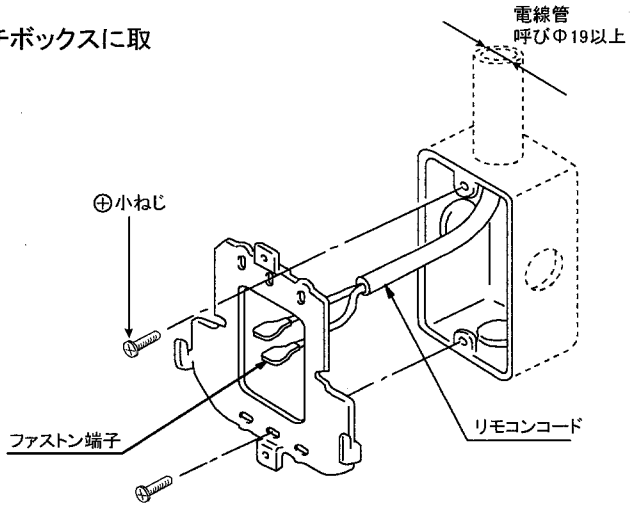
⑦ スイッチに貼ってある透明の保護フィルムをはがしてください。



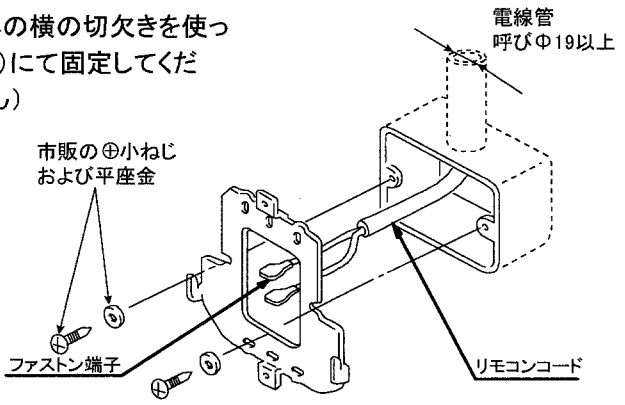
⑧ カバーをもと通りに取付けてください。

壁内埋込配線で給湯リモコンをスイッチボックスに取付ける場合

① 壁取付金具を⊕小ねじ(M4×25)にて、スイッチボックスに取付けてください。



●スイッチボックスが横向きの場合は壁取付金具の横の切欠きを使って、⊕トラス小ねじ(または⊕小ねじ＋平座金)にて固定してください。(トラス小ねじ・平座金は付属していません)



② リモコンコードのファストン端子とリモコン裏面の中継線のファストン端子とを接続してください。

③ ⊖ドライバーなどを使ってカバーを取りはずし、フタの中のスイッチに貼ってある透明の保護フィルムをはがしてください。

④ 壁取付金具にリモコンを取付け、⊕小ねじ(M4×12)で固定してください。

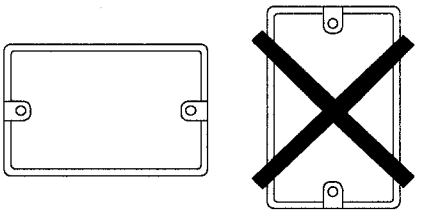
⑤ カバーをもと通りに取付けてください。

バスリモコンの取付け工事

スイッチボックスに取付ける場合

●スイッチボックスはJIS C 8336の1個用スイッチボックス（カバー付き）ーコンクリート壁用または、1個用スイッチボックス（カバーなし）ー木造真壁用をお使いください。

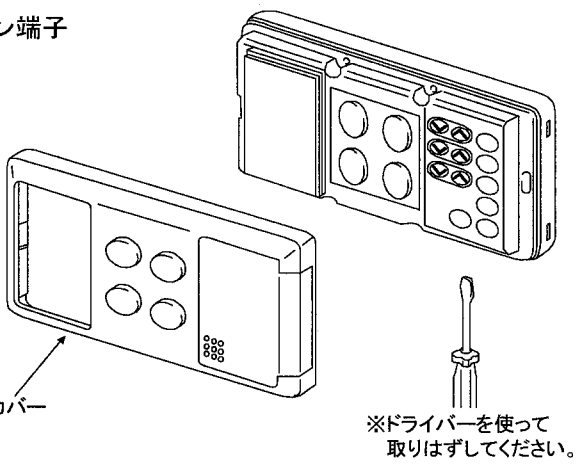
●スイッチボックスは横向きに施工してください。
縦向きでは施工できません。



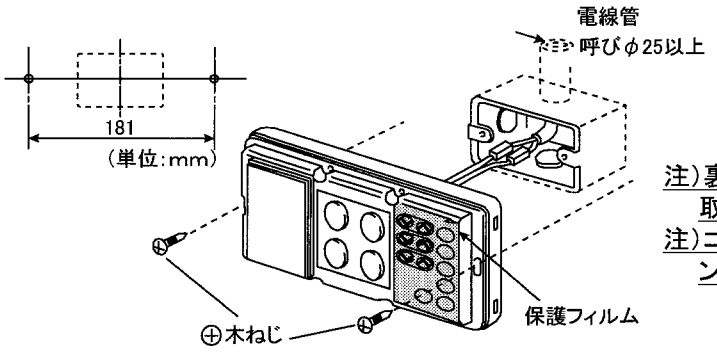
① バスリモコン取付け壁面よりリモコンコードが引き出されていることを確認してください。

② バスリモコンのファストン端子とリモコンコードのファストン端子とを接続してください。

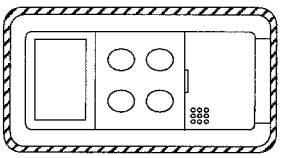
③ カバーを取りはずしてください。



④ バスリモコンを壁面に⊕木ねじにて固定してください。壁（または壁の素地）がコンクリート、ブロックなどの場合はウォープラグ用穴（Φ6、深さ25mm以上）を2箇所あけ、ウォールプラグを入れてから、⊕木ねじにて固定してください。



注）裏面の離型紙を取ってから取付けてください。
注）コーキング剤で全周コーキングしてください。

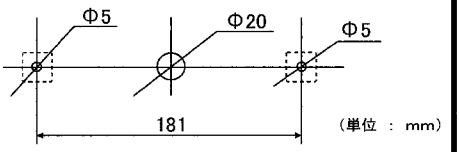


⑤ スイッチに貼ってある透明の保護フィルムをはがしてください。

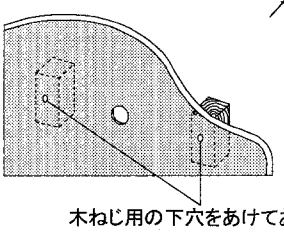
⑥ カバーをもと通りに取付けてください。

ユニットバスに取付ける場合

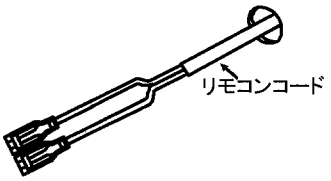
① 取付ける壁面にリモコンコード取り出し用の
穴1個とバスリモコン取り付け用の穴2個をあけてください。



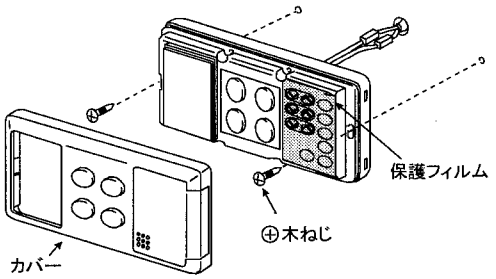
② バスリモコン取付け用穴の
外側に補強用の木片を取付け
てください。
※補強方法は、壁材質により異なる場合が
あります。各ユニットバスメーカーの指定
する取付方法に合わせて施工してください。



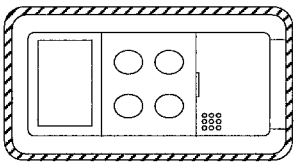
③ リモコンコード取り出し用の穴にリモコンコード
を通してください。



④ バスリモコンのファストン端子と、リモコンコードのファストン端子とを接続してください。
⑤ カバーを⊖ドライバを使用して取りはずしてください。
⑥ バスリモコンをユニットバス壁面に⊕木ねじ2本にて固定してください。



注)裏面の離型紙を取ってから
取付けてください。
注)コーキング剤で全周コーキ
ングしてください。

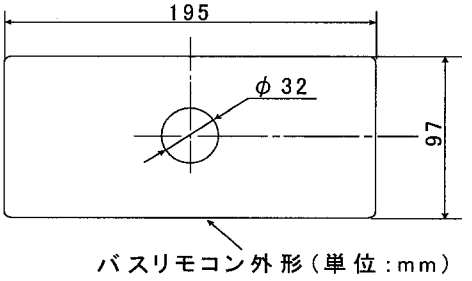


⑦ スイッチに貼ってある透明の保護フィルムをはがしてください。
⑧ カバーをもと通りに取付けてください。

壁貫通式の場合

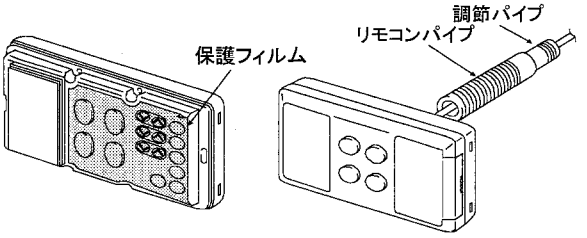
●別売の「BC壁貫通取付セット(BC-KT)」が必要です。
工事方法は、BC-KTに同梱の説明書ではなく、
本工事説明書に沿って実施してください。

① 浴室の壁にΦ32mmの貫通穴をあけてください。



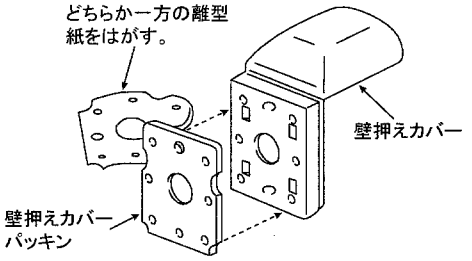
バスリモコン外形(単位:mm)

② スイッチに貼ってある透明の保護フィルムをはがしてから、カバーをもと通りに取付けてください。



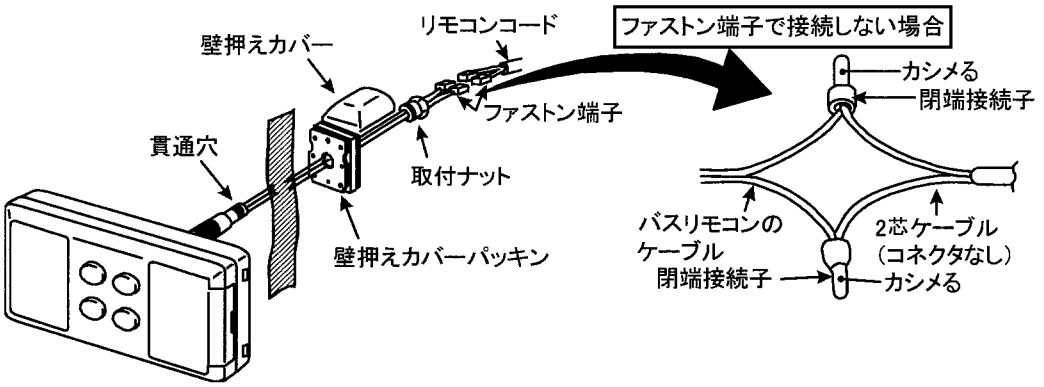
③ バスリモコンに、リモコンパイプおよび調節パイプを取付けてください。
・BC壁貫通取付セット(BC-KT)に付属の取付け板は使用しません。

④ 壁押えカバーに壁押えカバーパッキンを貼ってください。



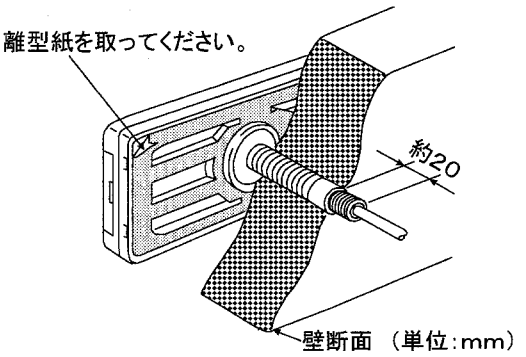
●壁押えカバーパッキンは両面離型紙付になっています。どちらの面を貼ってもかまいませんが、上下方向を間違えないようにしてください。(上図参照)

⑤ バスリモコンのファストン端子を下図のように通し、リモコンコードのファストン端子と接続してください。

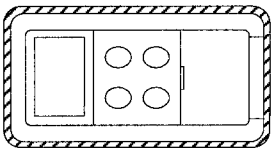


※ファストン端子の付いていない2芯ケーブルと接続する場合は、バスリモコンのファストン端子を切断し、先端の被膜をむいて右上図のように閉端接続子で接続してください。

⑥ 貫通穴にリモコンパイプを挿入し、バスリモコンを固定してください。

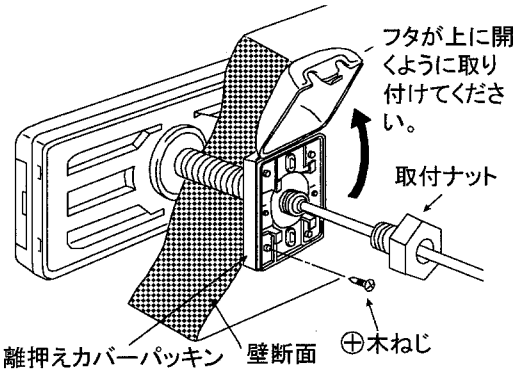


注）裏面の離型紙を取ってから取付けてください。
注）コーキング剤で全周コーキングしてください。

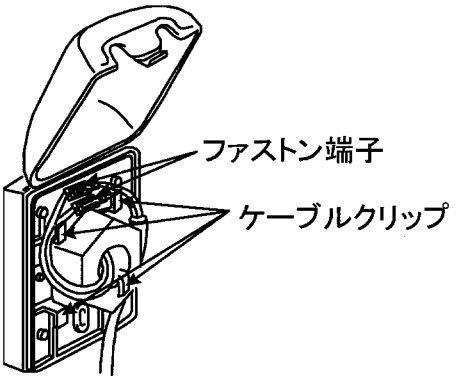


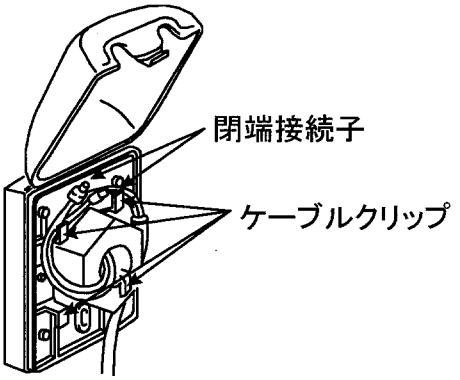
⑦ 調節パイプに壁押えカバーを通し、
⊕木ねじで固定してから取付
ナットで締め付けてください。

注） 壁押えカバーについている壁押えカバーパッキンのもう一方の離型紙を取ってから取付けてください。また、壁押えカバーの取付け方向は、フタが必ず上に開くようにしてください。

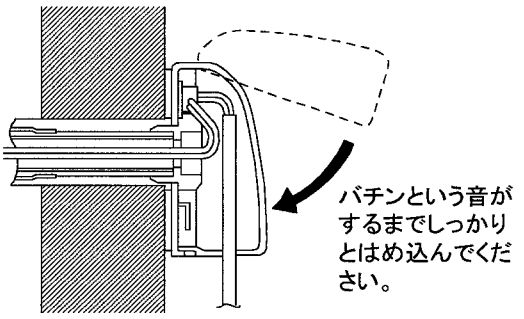


⑧ ファストン端子または閉端接続子の両側を壁押えカバーのケーブルクリップに引掛けてください。





⑨ 防雨のため、必ずフタをきちんと閉めておいてください。



8 排気筒の取付け　TBSK－401FU

※排気筒の取付け、取替え工事は専門業者に依頼し、各地区の火災予防条例の設置基準に従って、正しく取付け工事を行ってください。

※排気筒は風や振動などで倒れないよう、1.5～2mおきに固定金具で固定し自重を支える部分は支え、又は吊り金具等で堅固に支持し、外れ等が起きないようにしてください。

・標準トップ取付けの場合

・排気筒の呼び106のものを使用し、途中で細くしたり太くしたりしないでください。

・排気筒延長限界
排気筒長さは3m3曲がりまでとしてください。
排気筒の長さは、防火上の寸法を確保した上で、できるだけ短くしてください。
横引きは排気トップに対して下り勾配（1/50）としてください。

・先端には必ず付属の排気トップを下向きに取付けてください。

・排気筒と可燃物の距離（P. 2「標準据付け図例」参照）
排気筒を設置する場所の周囲は防火上安全なものであるかまたは、安全な距離を保ってください。

・排気筒の接続部は排気漏れがないようアルミテープで必ずシールしてください。

・Hトップ取付けの場合

・排気筒の呼び106のものを使用し、途中で細くしたり太くしたりしないでください。

・排気筒延長限界
立ち上がり寸法：7m以下、横引き寸法：3m以下、曲がり数：3曲がり以下としてください。
排気筒の長さは、防火上の寸法を確保した上で、できるだけ短くしてください。
横引きは排気トップに対して上り勾配（1/50）としてください。

・先端には必ず排気トップ（Hトップ）を取り付けてください。

・排気筒と可燃物の距離（P. 3「標準据付け図例」参照）
排気筒を設置する場所の周囲は防火上安全なものであるかまたは、安全な距離を保ってください。

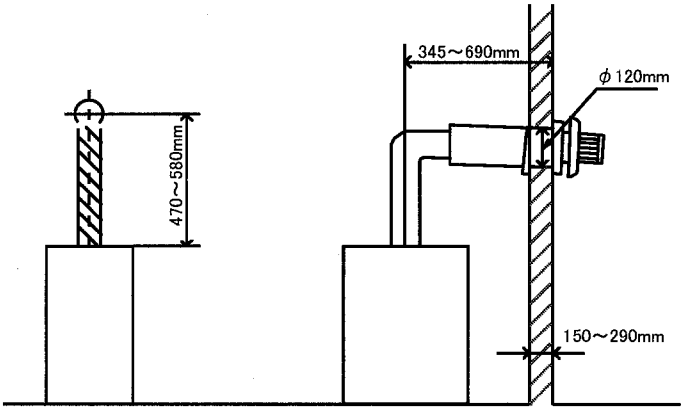
・排気筒の接続部は排気漏れがないようアルミテープで必ずシールしてください。

9 給排気筒の取付け　TBSK－401FFU

※給排気筒の取付け、取替え工事は専門業者に依頼し、各地区の火災予防条例の設置基準に従って、正しく取り付け工事を行ってください。

給排気筒は必ず専用のTBH-33FFSを使用してください。給排気筒を延長する場合は3m3曲がりまでとしてください。

※取付けは、給排気筒セットの工事説明書をよく読んで施工してください。



給排気筒の取り出し場所の選定

・給排気筒トップは必ず外気に面している壁に取付けてください。

・人通りの激しいところや、雪や風の吹きだまりになるような場所、つららの真下になるようなところには取付けないでください。

・周囲や近くに危険物や障害物のないところを選んでください。

・小さなお子さまが触れるようなところには取付けないでください。

・給排気筒と可燃物との距離（P. 3「標準据付け図例」参照）
給排気筒を設置する場所の周囲は防火上安全なものであるかまたは、安全な距離を保ってください。

・給排気筒の接続部はアルミテープで必ずシールしてください。

10 排気筒の点検

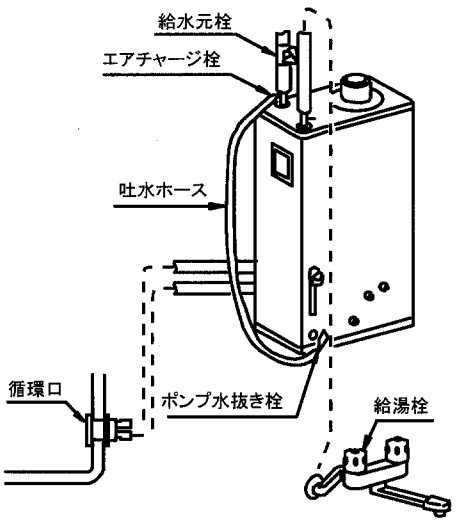
※取付けが終わったら、もう一度点検してください。P. 4～5「6. 排気筒、給排気筒の点検」のような取付けは危険であったり、不完全燃焼を起こすおそれがあるので、必ず修正してください。

11 試運転

正しく据え付けられていることを確認したあと、次の要領で必ず試運転を行ってください。
試運転は使用者とご一緒に必ず行ってください。
※試運転終了後、機器の凍結のおそれがある時や、長期間使用しない時は、取扱説明書の「水抜きによる凍結予防方法」に従って水抜きを行ってください。

運転準備

1. 給油
   ・油タンクに灯油（JIS1号灯油）を給油してください。
2. 送油経路の空気抜き（9ページ参照）
   ・油タンクの送油バルブを開きオイルストレーナの空気抜きネジをゆるめて空気抜きをしてください。
3. 油漏れの確認
   ・送油経路や機器から油漏れがないか確認してください。
4. 給水
   ・全ての排水栓、水抜き栓が閉まっていることを確認してください。
   ・給水元栓を開き、機器へ給水してください。このとき機器および配管内にたまっている空気を抜くために全ての給湯栓を少し開けておいてください。
   ・全ての給湯栓から水が出たら、給湯栓をしめてください。
5. ふろへの呼び水
   1）電源プラグをコンセントから抜いてください。
   2）給水元栓を閉めてください。
   3）給湯栓を開けた後、閉めてください。
   4）エアチャージ栓とポンプ水抜き栓をゆるめてください（2～3回転）。
   5）吐水ホースをエアチャージ栓とポンプ水抜き栓に接続してください。
   6）給水元栓をゆっくり開けてください。
      ・おふろの循環口から水が出てきたら、循環ポンプへの呼び水は完了です。
   7）給水元栓を閉め、吐水ホースを取り外してください。
   8）ポンプ水抜き栓とエアチャージ栓を閉めてください。
   9）給水元栓を開けてください。
6. 水漏れ確認
   全ての配管接続部や機器から水漏れがないか確認してください。
7. 電源プラグの差込
   電源プラグをコンセントに確実に差し込んでください。



運転

1. 運転開始手順

○給湯運転

①運転ｽｲｯﾁを「入」にしてください。

②給湯栓を開いてお湯が出ることを確認してください。

○ふろ運転

①浴槽の循環口より5cm以上、水（またはお湯）を入れてください。
②運転スイッチを「入」にしてください。
③「わきあげ保温」スイッチを「入」にしてください。
④おふろがわきあがることを確認してください。
※従来機種で必要であった、試運転モード操作は必要ありません。
（へこ あつく、へこ ぬるくの同時押しをすると、リモコンの音を消すモードになってしまいます。）

2. 初期運転時の異常現象

送油経路に空気がたまっていて着火しなかった場合は、安全装置がはたらき運転を停止します。
（リモコン上に「E1またはE2」を点灯表示します。）
このような場合は下記操作をしてください。
①いったん運転スイッチを「切」にし、再度運転スイッチを「入」にする。
②運転開始後、10～20秒ほどしても着火せず、運転が停止する場合は、再度①の操作を行う。
（このとき発する「ビー」音は、電磁ポンプの空打ち音であり、故障ではありません。）
また、着火した時に、黒煙が発生する場合がありますが、故障ではありません。

3. 正常運転の目安

・排気口からのススの発生がないこと。
・異常燃焼音（着火遅れなど）がないこと。
・機器から異常音や振動音がないこと。

4. その他の注意事項

・設置当初は、配管工事中のゴミなどがたまります。試運転後に必ず給水口フィルタの掃除を行ってください。
・試運転時に排気口より白い煙やにおいがでることがあります。これは、部品の機械油や吸音材などに含まれる油成分が燃えたり、空気を含んだ燃えない灯油が排出されるためで異常ではありません。
約30分連続燃焼するとなくなります。
・試運転終了後、お客様が長期間使用されない場合は、完全に水を抜いておいてください。
配管や機器内に残った水が凍結して機器が破損するおそれがあります。
また、電源プラグを抜き、安全のため油タンクの送油バルブを確実に閉めてください。
※水抜き後は必ず全ての水抜き栓を閉めてください。

消火の手順

①給湯栓を閉めてください。
②運転スイッチを押して「切」にしてください。

12 お客様への説明

・工事終了後は、取扱説明書に従って、「特に注意していただきたいこと」、「使用方法」、「日常の点検・手入れ」についてご説明ください。
・取扱説明書に従って、「修理、サービスおよび保証（保証書）」についてもご説明ください。
・「取扱説明書」は最終ページの「保証書」に必要事項を記入のうえ、「工事説明書」と共に、必ずお客様にお渡しください。

株式会社ＩＮＡＸ　お客様相談センター
ダイヤルイン　0562－31－0792
平日「9:00～19:00」対応
土日・祝日「10:00～18:00」対応（年末年始・夏期休暇は除く）